

聖書の花



And why do you worry about clothes?
See how the flowers of the field grow.
They do not labor or spin.

The Bible (Matthew 6:28) New International Version

マタイによる福音書 第六章二十八節

新約聖書にも書かれているアネモネの花。

アネモネはギリシア神話にも登場します。歴史が古く、人類とは長いお付き合いです。聖書では次の「野の花」がアネモネのことだと言われています。

「神は野の花が、働きもせず紡ぎもしないのに、花をこんなにも美しくお造りになる。神は鳥たちが、撒くことも刈ることもしないのに、鳥をこんなにも養っておられる。まして人間を、はるかに優れたあなたたちを、神が見ていて下さらないことがあるのか。」

マタイによる福音書。かつて、この部分は「野の花」ではなく「野の百合」と訳されてきました。研究者たちが調べた結果、キリストが伝道をしたガラヤからナザレの地方には百合は殆どなく、代わりにアネモネの花が咲き乱れていたということが分かりました。

キリストが「野の花を見なさい」と指したアネモネの花。

またギリシア神話では、美少年アドニスが流した血からこの花が生まれたと言います。他にも、アネモネという名の妖精と風の神の哀しいお話も伝わっています。それほど、人々の心に残る花だったのでしよう。

アネモネは「風の花」と呼ばれています。古代ギリシア語では風の娘という意味。野原で風に吹かれて咲く様子や、綿毛のある種を見て、そう呼ぶようになったのでしよう。地上にはいろいろな神話や宗教があるけれど、風の中で生きてきたこの花は今も昔も、私たちに寄り添い、いくつもの物語を語りかけてくれます。

(参考文献 聖書新共同訳「マタイによる福音書 第六章二十八節」 日本聖書協会)

花物語

比田井宗玉

